

(001)

明治五壬申年日録

(002)

- 正月四日 安沢弥十郎・新造年礼来り、酒出シ昼飯まかなひ帰村
喜兵衛野中江年礼并前年歳暮旁遣ス、音信物別長二記ス
およき嘉平江年礼ニ遣ス、黒さと半斤被持遣ス
七日 夜久右衛門江よばれ行 当年下男喜平
八日 浅宮岩堀江亀次郎年礼ニ行 下女岸水村文右衛門娘竹
十日 晚方亀次郎浅宮〇致帰村
十四日 朝宮おひろ来り
十五日 多蔵小嶋江年始ニ相招度旨使ニ行
十六日 朝多三・小嶋利平・豊太郎同道ニ而三人来り
同日 江上村久津美次郎左衛門見へ酒式升もらひ、兩人来り中飯
出酒被吞夕方帰村致ス
十九日 朝初御講、善六方昼そばニ而晚迄咄シ
廿日 山室采助そばニ而よひ昼来り、黒さと半斤持来り、夕方帰村
廿一日 山室采助・江上次郎左衛門娘并御所垣内善助三人来り、酒出し
夕飯被喰帰ス、但おきよ貫度一件ニ付来ル
廿三日 昼後安沢源右衛門・新左衛門年礼ニ見へそは切致候、夕方帰村
廿四日 江上次郎左衛門方へ昼前行キ晚帰村、黒さと半斤・鯉節老本持参
廿八日 源太郎朝宮行、おひろ不快ニ付少時見合呉候様、但朝宮江帰村之義
廿九日 晚源太郎帰村、昼後江上村久津美入来、夕飯たべ帰村、手拭一もらひ
二月五日 随応寺講、義平風邪不参、出銀三匁儀平子息ニ渡ス
七日 昼後江上次郎左衛門使御所垣内佐平来り、酒出晚帰村
九日 小嶋利平来り

(003)

- 九日 小嶋同道ニ而自分舟橋四王天娘見ニ行、稲田左倉屋へ立寄
候所亭主留主ニ付舟橋丈助ト申九兵衛一家へ立寄候所
丈助案内ニ而四王天隠居宅へ行、少時咄シ致娘は差合
有之不能見、夕方利平同道帰村
十日 小嶋昼前江上次郎左衛門方へ頼ミ遣シ昼後江上〇帰り同日
小市郎同道ニ而利平野中江帰村、喜平・小市郎負行ク
十二日 稲田四王天隠居へ行、留主、同所豆腐やニ而面会、晚帰村
十四日 四王天隠居見へる筈之処間違、舟橋丈助老人見へ直ニ帰ル
十八日 昼過四王天隠居へ行、此時不調之趣先方〇被断
十九日 お春野中へ帰り、送喜兵衛老人
同日 むらまつ隠居来り、泊り
廿日 自分・村松同道鷺塚嘉右衛門方へ祭礼ニ行、泊り

廿一日 昼前帰村、但酒札尅升嘉右衛門へ持参
 廿五日 昼前御所垣内村佐平・江上次郎左衛門方へ四月朔日致引越眞候様申来ル
 酒被吞中飯出シ帰し申候
 二月廿八日 昼前朝月次御講当番相勤メ
 三月三日 多蔵出福、戸籍方へ行村役仰付
 同三日 昼後出福、牧安二泊り
 同四日 牧安泊り
 同五日 村松へ泊り
 同六日 牧安へ泊り
 同七日 牧安へ昼後帰村
 同十五日 安沢新左衛門方江昼前へよはれ行、雨天ニ相成泊り
 □弥右衛門相談□参り「 」

(004)

十六日 昼後八ツ半時帰村、福井酒札尅升、安沢老母ニ香貫銀拾匁
 右二品新左衛門方江持参
 九日 天井二吉・多吉両人色々持来り、おきよ仕立
 十四日 天井二吉・多吉両人又来り、着物類持来ル
 廿四日 麻まき、苗代種入
 廿五日 御講藤七方へ参り、源太郎・佐太郎出福
 廿七日 朝法事、清平江よはれ行、昼時帰宅
 晦日 出福、自分・おきよ・供おな天井二而弁当致し晩帰村
 四月三日 高屋村庄屋久左衛門方江渡舟新艘仕立相談申来候間
 自分罷越、夕飯後帰村、悉皆拾式貫匁ニ而仕立高屋村
 三郎右衛門受取、五月五日切
 六日 天井二吉来り、昼後安沢弥右衛門へよはれ行、泊り
 七日 晩方安沢へ帰村、福井常盤屋酒札尅升ミやけ持参
 十日 野中小嶋行泊り、金巾手拭一・くすのこ老袋持参
 十一日 晩方帰村
 十五日 早天、自分・おはる・おきよ三人下部喜平・甚吉・下女竹三人
 両かけ式荷ニ而初テ江上村久津美江引移り致ス、晚自分帰村
 十七日 昼前お春帰り、迎人甚吉、同日自分江上へ行、昼後天井へ道具
 舟「 」二吉持来り候ニ付江上へ帰村致ス
 廿一日 御坊所御用出坊改革御頼、夕方帰村、喜平迎ニ来り、同道
 廿二日 野中小嶋五左衛門・同家内・まさ・下男庄平・ふく五人来り泊り
 廿三日 五左衛門・庄平帰村、同家内・政・ふく三人泊り
 同日 戸籍政ニ付鈴木勘兵衛相□河合新保の者ト兩人来り

(005)

泊り

同日 針原八杉・鷺塚嘉右衛門兩人来り、昼飯後引取り
銭壱貫文札壹枚針原の到来、鷺塚嘉右衛門の銀拾匁卜
白あめ五匁斗もらひ

廿七日 和口桶屋の養子貫二付夷町八百や幾久松来り

晦日 昼後江上久津美行、晚帰村

五月朔日 御坊所初而詰番出勤、晚帰村、新保卯右衛門詰合

四日 昼後出福、天井弥助へ泊り、五日朝帰村

六日 江上江おひろ同道、お久取扱二付罷越ス

十九日 むら松滝哉来り、泊り ミやけ 菓子拾匁・まき紙百枚もらひ

廿日 昼後滝哉帰福

廿二日 麦打、六表半、二番麦納三斗七升、此歩五百五拾歩斗り

柿木七拾歩ツ、二枚、神明腰百式拾五歩、丁田くろ百歩、嘉三右衛門隣田嶋五十分

亀か測七十歩、前屋敷五拾歩斗り、内屋敷拾五歩斗り

廿七日 半夏生二付針原嘉左衛門方へ行き昼後のむら松父子

同道二而鷺塚嘉右衛門方へ行、夕飯後帰村、嘉左衛門へ酒

札式升致持参、嘉右衛門へ何も不持

廿八日 朝高屋迄広瀬面会二行、多郎右衛門方へ行、少時休ミ

光徳寺面会、夫の弥左衛門方へ行、直二帰村

同日 なのたねもミ

六月五日 歩行、善六を待休日半日可致候様申越候所 嘉三右衛門ハ可然ト

申承知致候所千代三義承知致し不申、夫二付此方の何か

やねふきとか麦打とか無抛故障有之候ハ、是非なく候得共

むやみもならぬと申は如何と申越候得共承知不致

(006)

夫二付休日相止申候、此義風与失念不可申

此方の嘉平江向後休日此方二而心配不申候間千代三方

二而可然可被致旨柳助を以申越候、千代蔵

そんな事はとふてもせと柳助の承之

七日 □喜十郎入来、昼後同道二而出福、村松二泊り

八日 昼□喜十郎同道今泉村へ行、村松へ昼時帰り

むら松二泊り

九日 昼後の帰福

六月廿二日 出福、米善二而弁当致し昼寝後山田六郎方へ行

村松へ寄酒呑米善へ帰り夕方帰村

廿四日 江上村次郎左衛門方江眼病見廻二行、昼後帰村、同刻わし塚村

九左衛門・嘉右衛門兩人来り、石走り錠頼二来り

七日二日 六日市渡舟新艘出来見分高屋弥左衛門方二而致候二付自分行

夕方柳助迎二来り、帰村、相役千代蔵来候得共無断同人氣随二

しらぬまに帰り申候

三日 右渡舟割合銀并下新河戸入用共高屋戸長久左衛門の使高や
 久太夫を以銀受取持参二而取二参り申候二付右使江相渡ス
 高屋弥左衛門のそうめん二わもらひし、御引式匁
 同日 昼後福井中山次郎平立寄、酒出し、築石式十老代
 かまと老組代二品ノ老貫八百拾五匁渡シ受取書入相済
 廿九日 出福、天井弥助二而中飯府中御霊屋御手伝料
 佐口間江渡ス、夫の村松へ寄晩方帰村
 晦日 庄屋退役入札致ス
 八月二日 昼後山室芝居見二行、夕方栄助方へ立寄、佐太郎卜兩人栄助方二而
 夕飯致ス、川江すへり着物よ、これ栄助方二而致借借用着替帰り
 三日 朝着物被持するめ二把添栄助へ返済、使竹

(007)

山室の芝居申越候方栄助・六左衛門・吉平・与三右衛門・弥左衛門
 此兩人途中二而逢候節申聞ケ候

四日 村松滝哉来り、昼飯後帰福、銀子借用之用向
 十八日 昼後の高屋弥左衛門方へ祭礼二行、夕方帰村
 廿日 およ口・お玉・源次郎・おみよ・おてよ福井御開帳参り
 廿二日 朝宮口ひろ来り、送り男女式人
 廿三日 御礼二小嶋利平、小市郎送り、ふく・利平次同道三而来り、夜中帰村
 安沢弥十郎・新造兩人来り、さと箱一ツゞ持来り
 山室新兵衛来り、大なし一ツもらひ
 夕飯後波寄仙十郎・三九郎兩人来り、酒出シ是も夜
 中遅二帰村、仙十郎のはな紙三束もらひ
 遅二山室六右衛門来り、酒出し被吞申候
 廿五日 昼少シ前山田六郎藤牧屋甚蔵ト申者ト兩人庭作二来り
 廿八日 朝少時庭致シ右兩人山田六郎・藤牧屋甚吉兩人致帰福
 甚吉へは廿八日朝帰り候得共四人分トシテ銀式百匁一日五拾匁ツ、宛
 にて外二三拾匁気付遣ス
 山田六郎へは鱈節式本・ばん茶老升二品遣ス
 九月三日 昼後江上雄次郎来り、夕飯後帰村、送り喜平
 同日 昼後多蔵福井江右之買物二行
 同日 昼前安沢新左衛門来り、あゆ三ツもらひ
 九日 昼口石畑村石屋へ行、治平方江立寄、夫の小わた半四郎江
 より酒呑、夕方帰村、亀次郎江上迄迎
 十二日 昼後江上村次郎左衛門へ行、加右衛門も行、夫の平九郎方江兩人行
 山へ茸狩二行、夕方帰村、次郎左衛門切そふめん三ツ持参
 十三日 江上村雄次郎昼前来り、松たけ十本斗り持参もらひ
 平九郎迎二来り、晩方帰村

- 十五日 源太郎浅宮入来買物ニ福井へ行ク
 昼後〇江上相撲見物岩堀芳太郎同道行、伝太夫
 棧敷ニ而同人馳走ニ相成次郎左衛門も重詰到来
 直〇帰村、相撲花銭札尅貫文江上若連中江出ス
 伝太夫悴江相渡ス
- 廿日 江上村久津美小児病死、葬式ニ行晚帰村
- 廿六日 多蔵嘉右衛門同道出福、村松行晚帰村
- 廿七日 江上納骨ニ付米か脇西光寺へ参詣、雨天ニ付宿小坂屋ニ
 泊り、西光寺香料五拾匁、宿小坂屋へ菓子料百匁
- 廿八日 早天円蔵寺へ御講師御座参り、昼飯後〇宿を
 出三国加藤へ寄大相撲見物致し候、高江平右衛門同道帰り
 三国加藤修輔江銀三拾匁嫁江式拾匁遣ス
 夜陰ニ相成安沢七蔵方ニ而一盃催し安沢七蔵江銀百匁酒代
 但高江元右衛門へ相渡ス、夜分帰村
- 四日 多造・亀次郎・源太郎・佐太郎四人福井大相撲見ニ行キ
 自分森田幽閉見舞ニ行、朝針原嘉左衛門へ立寄
 同人留主、鷲塚嘉右衛門へ寄、昼飯支度、馳走ニ相成り
 昼後森田寺へ行、夕方帰村
- 五日 出福、村松ニ泊り、夜武田老人卜付合
- 六日 同村松ニ泊り、芝居行 寿翁・喜十郎・自分・幻妻老人
 魚彦〇兩人
- 七日 昼飯後〇ウヲ町魚彦行、泊り
- 八日 昼後帰村
- 十一日 山室水戸守方江地割帳面頼ニ行、戻り、吉兵衛・栄助へ立寄
- (009)
- 十五日 昼後高江平右衛門行、酒吞夕方帰村
- 十六日 むら松滝哉来り、昼後帰宅
- 十七日 山室村大工喜之助来り
- 廿日 惣夷講長右衛門方江よはれそば切
- 廿二日 永徳寺昼前来り、昼飯後帰り、永徳寺儀
 但嘉兵衛方江和談一件挨拶ニ行候所嘉平儀不取敢
 空帰り、伐木けやき類川出し致ス
- 廿四日 供石松連レ自分小嶋へ行、二宿泊ル、廿五日晚お若一周忌
 廿六日朝同所報恩講、右両度共御経ニ逢
- 廿六日 昼後小嶋を出兵庫源五郎へ立寄、七ツ時前帰村
- 廿八日 むら松滝哉御合羽屋養子之事ニ来、同日帰福
- 晦日 江上江亀次郎御合羽屋行之事被知ニ行泊り、朔日朝帰り
- 十一月二日 むら松三ツ橋絹屋久右衛門僕三人来り、結納

持参ニ而晚方帰福、江上久津美は不参

夜分ニ成岩堀芳太郎来り、泊り

五日 晚地割手帳五冊柳助持来り

七日 昼九ツ半時ニ平火事、老軒ニ而相済

廿日 夕方森田光林寺来り

廿一日 朝報恩講、よび人 助右衛門・善六・同家内・子共・二平石松

弥左衛門 □□名代ばゝ・同嫁・新三郎・弥十郎 不参・喜平ばゝ 不参・同嫁・おきり

平次郎・藤左衛門かゝ・おゆう 此ハ表向ニてなし・またろゝ来人十四人

霜月晦日 夕方恵徳寺入来、小鴨老羽到来

昼飯後恵徳寺帰寺

(010)

十二月十二日 昼かりきて助右衛門・弥十郎・門左衛門かゝ・おつな四人よひ

十五日 出福、島彦ニ泊り

十六日 同断

十七日 天井弥助ニ泊り

十八日 右同断

十九日 夕方帰村

廿二日 恵徳寺・島津久・泉助八郎三人桑山一件ニ来り泊り

廿三日 鳴津・泉兩人帰福致ス

廿四日 昼後恵徳寺三国へ行、夜清平江そは切よはれ

廿五日 夜平右衛門へそばニ而よばれ

五月十七日 広瀬村光徳寺泊り御話、布施拾匁

十八日 同僧高屋へ行